

令和4年度第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和4年12月7日（水）

近畿中国森林管理局 第1会議室（対面Web併用形式にて開催）

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

国産丸太は、伐採シーズンを迎え出材は増加傾向にある。出材が多く価格の下落が顕著であったヒノキは、出材割合が減ってスギに置き換わったことや製材工場の原木在庫が減少したことから、品薄感もあり価格面で反発し、回復する傾向も見られる一方、国産材製品は、輸入材の港頭在庫が高水準なことで荷動きは芳しくなく、価格も下落傾向であるが、ヒノキ製品では丸太価格の反発に伴い、強めの気配も出ている。

輸入木材は、構造用集成材の在庫調整に目途がついた工場も出てきたが、依然として在庫は多く、在庫減らしが目下の課題となっている。他方、急増していた中国合板関係では、合板メーカーのJAS認証の停止で急減したが、合板市況を一挙に悪化させ、国内合板メーカーは減産している。輸入環境は、為替相場の円安基調、インフレや原油高、ウクライナ情勢など、一部では緩みが見られるものの、これらの不安材料は継続しており、港頭在庫の調整見通しも加わることで、価格動向の不透明さは増すことから、それぞれの情勢推移を注視する必要がある。

以上のとおり、下落傾向で推移してきた国産丸太の価格は、一部で回復傾向も見え始めており、直ちに国有林材による供給調整が必要との局面にあるとは判断しない。なお、国有林においては計画した素材生産事業や立木販売による木材の安定供給・販売に取り組むことを第一義として、地域での樹種や用途等の需要動向、民有林材の出材状況、木材の輸出入状況、住宅着工戸数等について注視することが必要であり、引き続き情報収集・分析を行う。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・和歌山県内のプレカット工場では、秋需は例年ほどではなく、工場の稼働率は例年に比べると10%程度低下している。合板も輸入材も順調に入荷されている。
- ・和歌山県内の製材工場では、県内外からの受注は全体的に落ちてきており、工場の稼働率は少し落ちているが100%の状況となっている。工務店では、住宅機器や資材費の高騰に対応し、延床面積を小さくするなど建築費の上昇を抑え、利潤に繋げようと取り組んでいるところだが、最近の受注に陰りが見えており、今後、稼働率が低下する恐れがあるのではないかと心配している。
- ・和歌山県内では、10月に有田川町内の木質バイオマス発電所が稼働を開始したことから、現在4基稼働している状況となっている。バイオマス用材と競合するC材の需要も伸びていることから、バイオマス用材の集荷に非常に苦戦している。特にバイオマス用材は、会社によって自社で伐採班を抱えているところもあるが、思うように集荷ができていない状況にある。
- ・和歌山県内の原木市場では、今年1月から11月における出荷量は対前年比4%増、木材価格は、スギ中丸太平均価格は12,978円/m³と前月比108%、ヒノキ中丸太平均価格は17,826円/m³と前月比96%と徐々に下がってきている。
- ・世界の住宅着工全体が低下している中、日本の住宅着工は安定している。世界では金利を上げているが、まだ日本は低い金利を維持していることから安定していると思われる。住宅と非住宅でいうと、住宅は前年同月比で10%程度マイナスになっているが、非住宅は底堅いことから、木材の需要量としては減少とはならないと考える。住宅についても、注文住宅（工務店関係）は非常に弱い、分譲住宅（ビルダー関係）は強いことからトータルで木材需給は強いと思われる。
- ・奈良県内の原木市場では、10月に入り製材用原木の新材仕入の動きがみられ、市況は夏場の落ち込みから徐々に値戻しが見受けられている。スギ材は夏場に一旦価格調整が行われたが、秋は再び上昇し安定した価格で推移している。ヒノキ材は地域により格差が大きかった夏場の低調な価格帯から脱し、徐々に値上がりの傾向が見られ出している。製紙・バイオマス向け低質材は、慢性的な不足から引合いは続いており、市況の下支えとなっている。10月以降は気候も安定し伐採シーズンに入っているが、昨年と一転して、春先から夏場にかけての低調な市況動向の影響もあり、出材量は7月から10月まで4ヵ月連続して前年割れしている。スギ、ヒノキの出材割合も夏場まではスギの割合が高かったが、今秋も市況が安定しているスギ材の出材が増加している。
- ・大阪府内の製品市場では、10月期は前年と比較して売上高が18.6%減、販売量は11.0%減でどちらも2ヵ月連続2桁減となった。木材価格は昨年11月が頂点で徐々に価格が下がってきている。荷動きは8月こそ前年増となったが低調な状態が続いている。売上高・販売量・取扱商品について、令和4年10月までの1年間の売上高は、前年比8%減、販売量は前年比18%減と落ち込んでいる。

○今後の見通し

- ・外材の現地価格は住宅バブルの崩壊によって大分下がってきていることや船賃が下がっていること、為替が若干円安になっていることなどから、輸入価格は下がっているが、欧州で素材生産がうまくいっていないこともあり、先行きは不透明であることから注文数量が順調に入っていないのではないかと考えられる。国産材系統は住宅着工も悲観的ではないことを踏まえると、国産材に対する需要は強いのではないかと考えられる。
- ・夏場の市況下落の影響により立木仕入が進んでおらず、今冬の出材量の大幅な増加は見込めない状況にある。積雪の心配されるエリアの伐採は積極的な素材生産にシフトせず、民有林の間伐施業も搬出を行わない除伐施業への計画変更も見受けられる。特にヒノキ材は各地で価格の下落幅が大きかった為、伐採が控えられてきており、今後の市況回復の動向によって、出材量が大きく左右されることが懸念される。
- ・ウッドショックやロシアによるウクライナ侵攻の影響で木材価格が上昇、供給不足による在庫量の激減はあったが、夏以降荷動きが鈍化し、11月時点では木材価格は2～3割安、在庫量はウッドショック前より増加しており、製材品の不足は完全に解消したと思われる。しかし、半導体不足や為替の変動、中国のゼロコロナ政策の影響等で建築資材の値上げや納期の遅れもあり、新設住宅着工戸数の伸びも見込めない中、今後、木材価格がどの程度値下がりするか気がかりである。

○その他

- ・兵庫県内の素材生産業者では、高性能林業機械の導入を検討しても、手に入れることができない状況にある。現在、機械メーカーは3年間分の受注量を抱えており、製造が追いつかないため、注文を受けていない。この3年間のブランクは今後の出材に大きく影響してくると考えられる。また、高性能林業機械の導入に当たり、補助金の申請を行ったものの、機械が手に入らず、補助金の交付前に申請を取り下げるという問題も発生している。補助金を活用して林業機械の導入を検討している業者は導入ができない状況になってしまう。この状況が続くと、素材生産体制の根本を揺るがす全国的な問題になりかねない。
- ・中国産合板の輸入量は、令和4年6月のピーク時に2万㎡であったが、中国合板メーカーのJAS執行停止を受け、10月は4千㎡まで減少した。しかし、JAS問題が沈静化し、再び中国産合板が輸入されると、国産合板が2千円/枚のところ、中国産合板が千数百円/枚と圧倒的な安値であり、国内の合板市況を悪化させることから、今から手を打たなければいけない。
- ・中国は日本向けであったロシア単板2万㎡にNZ材等を入れた3万㎡の合板を持っていることになり、原木換算で4万㎡になる。これが日本に輸入されると、4万㎡のB材需要が無くなることを認識していただき、林野庁として早急に対策を取っていただきたい。

令和4年度

第3回 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会

出席者名簿

委員

氏名	所属等	備考
松下 幸司	京都大学 教授	Web出席
小川 泰典	和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長	Web出席
八木 数也	株式会社八木木材 取締役	
荻原 直樹	中国木材株式会社山林事業部 副本部長	Web出席
内藤 和行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	
西垣 泰幸	西垣林業株式会社 代表取締役会長	

森林管理局

氏名	役職等	備考
清水 隆典	森林整備部長	
西村 敏行	資源活用課長	
野村 昭二	企画官（間伐推進）	
柴田 章治	企画係長	
石田 英夫	行政専門員	

令和4年度 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所 属	備 考
学識経験者	まつした こうじ 松 下 幸 司	京都大学 教授	W e b 出席
都 道 府 県	おがわ やすのり 小 川 泰 典	和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長	W e b 出席
	いしはら ただし 石 原 匡 師	岡山県農林水産部 林政課長	ご 欠 席
素 材 生 産 業	とがわ むつのり 戸 川 睦 徳	株式会社戸川木材 代表取締役	ご 欠 席
	やぎ かずや 八 木 数 也	株式会社八木木材 取締役	
木 材 業 界	みす もとふみ 三 栖 基 史	株式会社山長商店 常務取締役	ご 欠 席
	おぎわら なおき 荻 原 直 樹	中国木材株式会社山林事業部 副本部長	W e b 出席
	ないとう かずゆき 内 藤 和 行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	
	なんば よしひで 難 波 芳 英	江与味製材株式会社 代表取締役会長	ご 欠 席
原 木 市 場 製 品 市 場	にしがき やすゆき 西 垣 泰 幸	西垣林業株式会社 代表取締役会長	